

平成 26 年度まちづくり懇談会会議録【小笠南地区】

日 時 平成 26 年 11 月 17 日 19:00～20:30
会 場 みなみやま会館
参加者 67 人

※「菊川市 10 年の歩みと今後のまちづくりに向けて」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

●10 年間のまちづくりを振り返っての所感・ご意見

●地区自治会長

- ①掛浜バイパスの小笠南地区部分が未だ一部工事中です。また、地区の公園整備開始についても、市の取り組みには感謝していますが、整備はこれからという状況です。小笠南地区は全体的に見て、他の地区に比べ公共インフラの整備が遅れているというのが率直な感想です。早期に整備をお願いしたいと思います。
- ②人口が減少傾向ということで、掛浜バイパス開通後を見据えた、周辺開発や産業振興等、中長期的なビジョンで将来に希望が持てるまちづくりをお願いします。

○市長からの回答

掛浜バイパスにつきましては、市でも最も重点を置いている事業であると私は考えております。地域の皆様には様々な面でのご協力に感謝を申し上げます。掛浜バイパスは、新市まちづくり計画あるいは第 1 次総合計画においても最優先道路として位置づけられており、中東遠地域の幹線道路として、市と県が力を合わせて整備事業に取り組んできました。平成 25 年 3 月に、奈良野交差点から県道相良大須賀線までの区間が完成し、すでに奈良野から下平川の市道青葉通り線までの区間が供用開始されております。また、来年 3 月には、赤土の市道嶺田川上線までの区間も完成する予定です。更に、このバイパスの整備に合わせて市で整備を進めております道路も同じ時期に完成予定であり、掛浜バイパスと現在の掛川浜岡線を結ぶ東西の道路が、来年の春には供用開始ができるものと思います。そこから更に、南の佐栗谷に向かっての区間についても、引き続き市の重要事業として、県と力を合わせて整備に取り組んでまいります。

公園整備につきましては、数年前のまちづくり懇談会で「コミュニティセンターの近くに環境の良い公園を」というご提言をいただき、自治会やコミュニティ協議会及び地域住民の皆様と協議のうえ、現在、前岡池東側を予定地として測量設計を実施し、調査研究を行っております。事業を進めるにあたっては地域の皆様のご協力が不可欠ですので、今後ご理解とご協力をお願いいたします。

次に、「掛浜バイパスの開通を見据えた希望の持てるまちづくり」についてです。私自身の経験からも、道路ができることによる投資効果には非常に期待が持てますが、地域住民の皆様の協力なしでは事業を展開することができません。道路の線に加えて、面の整備も必要です。周辺地域の用途についても中長期的なビジョンで検証・見直しを行いながら、今後のまちづくりにつなげていきたいと思っております。

●河東西・男性

- ・先月の台風 18、19 号の対応について、避難勧告が発令されましたが、全体的に、大雑把に出しているな、という感じがしました。また、携帯電話へのお知らせメールが、docomo 利用者には届きましたが、他社利用者には届きませんでした。どの会社の携帯電話を使っても同じようにメールが届くようにしてほしいのですが、今度の対応はどうする予定ですか。
- ・地域サービスとして、みなみやま会館等の地区センターに事務長を含め 2 人位の職員を置いて、小笠支所に行かなくても市役所の取次業務ができるようにしていただけないでしょうか。例えば住民票が欲しいとき、事前に依頼すれば地区センターで受け取ることができるかと有難いと思っております。

○司会より

台風 18、19 号の避難勧告、緊急エリアメールについては、この後「今後のまちづくりに関して(1)「安心・安全」について」で、併せてお答えさせていただきます。

○総務部長からの回答

コミュニティセンター及び地区センターの管理について、事務長様をはじめ地域の皆様には非常にお世話になっております。現在、事務長様がお一人ということで、大変苦勞されていることとは思いますが、市役所の取次業務の分担については、多いのか少ないのかは、分かりかねるところでございます。住民票等証明類の取次業務につきましては、合併から 10 年が経過した現在、小

笠支所の事務分掌を検討しているところであり、支所業務自体は今後も継続する方針であります。ただし支所の場所については、内田や横地といった菊川地区の市民も含めて利用が多い小笠図書館（中央公民館）を候補に、庁内で方針を検討しております。今のところ、各地区センターに証明書類を発行できる拠点を設置することは考えておりません。

●河東西・男性

掛川市ではコンビニで証明書類が受け取れるようです。現在の状況だと、そこまでのレベルには対応が追い付かないことと思います。

○総務部長からの回答

たしかに、掛川市ではコンビニの他、派出所を設置して証明書類の発行ができるようになっていきます。それぞれ市町によって方針があるため、申し訳ありませんが菊川市においては設置を検討しておりません。ただし、収納業務につきましては、来年度よりコンビニで納付ができるよう窓口を広げる予定です。

●**今後のまちづくりに関しての意見**

●地区自治会長

○「**安心・安全**」について

①台風 18、19 号の接近に伴い避難勧告が発令されましたが、菊川市内全域が対象となるのは、私の記憶では初めてだったのではないかと思います。また、「避難勧告」という言葉の意味自体や、どう対処したら良いかを理解していないこともあると思います。実際に台風が接近となったとき、大雨や土砂災害の危険がある地域に限定して避難勧告を発令することはできないのでしょうか。危険地域のみへの勧告であれば、（勧告を）受ける側も避難すべき状況だと感じるとは思いますが、市全体への勧告だと、大雨が降っても浸水や土砂崩れの心配がない地域も対象となるため、勧告を無視したり軽く感じてしまったりする可能性があります。本当に危険なときに避難勧告が発令されても「避難しなくていいや」と軽く考えられてしまうのが怖い。危険がある地域に限定しての避難勧告発令という対応をお願いしたいと思います。

関連して、地震や水害の際のハザードマップを、市のホームページに掲載していただきたいと思います。実際に浸水等の危険がある地域に住んでいる方は分かっているのかもしれませんが、小笠南地区全体で見たときに、どこ

が危険地域かは分かりません。ホームページですぐ閲覧できれば自治会長等も個々の（危険性を）判断ができるようになると思います。

- ②浜岡原発についてですが、小笠南地区は市内で最も原発に近い地区です。万一事故が発生した場合は、全員が速やかに避難できるような体制をとっていただけますようお願いいたします。

○市長からの回答

ありがとうございました。まず、避難勧告発令の仕方についてとハザードマップ、それから原発からの避難について、私から回答させていただきます。

まず、避難に関する情報は3段階に分かれており、一つ目が「避難準備」。これは要援護者の方等に避難を始めていただきたいという情報です。二つ目が、自治会長さんが先ほどおっしゃった「避難勧告」で、これは、自主避難を呼びかける情報です。それぞれが危険を感じる場合、自主的に避難をしていただくものであり、今回の台風ではこれを発令しました。三つ目が「避難指示」。これは、市が「この地区は非常に危険であるから避難をしてください」と、少し強い口調で避難を呼びかける情報です。

今回の台風 18、19 号では、河川の氾濫だけでなく土砂災害等の危険があったため、自主避難を呼びかける「避難勧告」を、発令させていただきました。18号接近後には、多くの市民の皆様から「もっと早く（勧告）を発令してほしい」という声がありました。勧告は、早く発令すればよいというものでもありませんが、今回の台風 19 号の場合はコースや被害が想定されましたので、早い段階での対応は必要と判断しての発令としました。

ハザードマップにつきましては、平成 23 年度に全戸へ配布いたしました。ホームページにも掲載がありますが、見難いところもありますので、ホームページの担当に申し伝え、もう少し見やすいものに改善したいと思っております。

次に、原発からの避難についてですが、現在避難の方法について菊川市単独ではなく、県と半径 30 キロ圏内の 11 市町での計画策定を進めております。広域での避難計画をまとめるには、避難場所の協議など他県との調整もあり、少し時間がかかります。計画が策定されましたら、市民の皆様にお知らせしたいと思いますので、ご理解をいただけますようお願いいたします。また、緊急エリアメールにつきましては、危機管理部長より回答いたします。

○危機管理部長からの回答

緊急エリアメールにつきまして説明させていただきます。従来、市でエリアメールは活用しておりませんでした。現在 docomo と au、SoftBank の 3 社と

協定を取り付け、今回初めて避難勧告の時点で送信させていただきました。同報無線だけでは連絡が行き届かないこともあり、できるだけ皆様に情報をお伝えしたいという意図によるものです。先ほど、docomo 利用者には届かなかったというご指摘がありました。こちらでは3社送ったつもりでおりましたので、再度検証させていただきたいと思っております。全ての利用者にメールが届いたかどうかの検証はしていませんでしたので、今後間違いのないようにもう一度確認をしてみます。

また、先ほど市長からも紹介がありましたが、今年防災メールのシステムを作り上げているところです。メールを登録していただきますと、気象情報や防災情報、その他市の情報等を受け取っていただけます。ぜひ活用していただけますようお願いいたします。

●河東西・男性

なぜメールが全利用者に届かなかったのか、しっかりと検証していただきたいと思っております。

○危機管理部長からの回答

メールの設定で、外部からのメール受信を拒否する機能があります。今後、設定についてもご案内したいと思います。

●南ニュータウン・男性

台風18号の際、南ニュータウンとNOK株式会社の間で（菊川の枝川が）非常に増水し、写真を見ていただくと（※写真提示）水が溢れそうなのがわかると思います。自治会内では、泥が堆積していて川底が浅くなっているのではないかという話になりました。ユンボ等で川底を掘ってもらえれば、少しは改善するのではないのでしょうか、ぜひお願いしたいと思います。

○建設経済部長からの回答

旧小笠町の中で、この南ニュータウンと黒沢地区は増水が早く起こる地域として承知しております。下流には江川の排水機所があり、ポンプアップにより対応しております。また、市でも「菊川改修期成同盟会」として毎年夏と秋の2回、国土交通省の浜松事務所または名古屋の中部地方整備局、東京の本省へ要望・陳情に行っております。その際に毎回、南ニュータウン周辺の写真を添付して状況を示し、本来下流側から行う浚渫（＝不用土砂の排除）を、増水に苦慮している中流・上流部でも行ってもらえるよう要望しております。また先般、中部地方整備局の方が菊川にいらっしゃった際には、菊川水系全般を含めて整備

をいただけるよう要望したところです。今後も引き続き、このたびのような要望があったことを国にも伝えてまいりたいと思います。

●南ニュータウン・男性

南ニュータウンの南側の道路ではスピードを出して通行する車が多く、皆さんが抜け道として利用しているようで、40キロ以上の速度を出している車もあります。高齢者も増えてきており、小さい子どもも多いので、スピードオーバーを抑制する標識等を設置していただきたいと思います。

○危機管理部長からの回答

安全課の所管するところで、交通安全・防犯の係がございます。そちらで地域の要望を受け付け、交差点や一旦停止の注意看板をお作りして配布しておりますので、よろしければ安全課へご相談いただきたいと思います。

○建設経済部長からの回答

時速制限、一旦停止といった法に関するものは、交通安全委員会、警察の所管となります。自治会から安全課へ要望書を提出いただければ、こちらから警察に届けさせていただきます。ただ、「(注意の) お願い」という形でしたら、安全課で準備することもできます。

●地区自治会長

○「**地域医療**」について

①静岡県は健康寿命が一番長いと聞いておりますが、菊川市の状況はどうか、ということをお聞きします。また、健康寿命を延ばすためには予防医療が重要と思いますので、家庭医療センターのさらなる充実をお願いします。

②予防医療の取り組みとして、テレビなどで長野県の事例が紹介されていますけれども、菊川市においても病気の傾向を分析し、対策を提案していただければ有難いと思います。

○市長からの回答

菊川市における健康寿命はどのくらいかとのご質問ですが、これは国が都道府県別に出したもので、市町村単位では発表されておられません。しかし、静岡県では「お達者度」という違う視点から見て、独自に算出したものを発表しております。最新の23年度版では、菊川市は県内35市町のうち男性21位、女性

15位となっています。そして、家庭医療センターにて取組みをお願いしておりますのは、外来診療に加えての在宅診療です。最近では国保の特定健診あるいは予防接種をお願いしております。今年も9月までの半年間で、特定健診は320人、予防接種も415人と多くの皆様にご利用いただき、有難く思っております。ぜひ地域での健康管理・健康向上に家庭医療センターのご利用をお願いしたいと思います。

菊川市における病気の傾向についてですが、まず、今年度、市ではロコモティブ・シンドローム対策など、全庁で健康増進への取組みを行っております。また「すこやかプラン」を作成し、食事や運動等さまざまな健康管理を委員の皆様をお願いしております。今後の予防の取組みとしては、国民健康保険や、後期高齢者医療制度から算出したデータを分析し、活用してまいります。社会保険、健康保険組合においても、どの程度のデータが出てくるかは不明ですが、「データヘルス計画」作成への取組みを推進することを考えております。今後も、データ分析し情報を収集しながら、市民の皆様の健康管理・健康推進に取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

●地区自治会長

○「子育て支援」について

小笠南幼稚園・保育園・小学校と、もともと多くはない児童数がさらに減少しており、存続が危ぶまれています。存続をぜひお願いしたいところですが、その条件や将来展望をお聞かせいただければと思います。

○市長からの回答

子育てにおいて幼稚園・保育園・小学校は重要な施設ですので、私の考えを述べさせていただきます。まず小学校の場合は、各学年2学級ずつの12学級以上が好ましいとの思いがあるものの、市内9校のすべてが2学級というわけではありません。かといって、1学級しかないから不相当とは考えておりません。特に小笠南小学校においては、現在たしかに児童数が減少しておりますが、今後5年間の見通しで120人を超える児童が在籍するというデータを持っております。これは私の考えですが、それぞれの小学校には100年以上の歴史があり、それぞれ地域の方や文化、子育てがあり、防災や人づくりの拠点として学校は重要な施設でありますので、現時点では学区の変更や学校の統合は考えておりません。

次に、みなみ保育園、南幼稚園についてですが、みなみ保育園は現在0歳から5歳児までが86人、そして南幼稚園は3歳から5歳児38人を保育しており

ます。先程も申し上げました通り保育園と幼稚園につきましては、平成 27 年 4 月から国の制度「子ども・子育て支援新制度」がスタートしますので、現在支援事業の策定を行っております。この中で菊川市の子育て、保育園、幼稚園に関するニーズや計画値等を検討しております。市内には園区が指定されておられませんので、親御さんはいろいろな保育園、幼稚園を利用されている状況です。しかし今後の在り方につきましては、国の制度が変更される予定ですので、これから協議を行い、地域や民間の保育園・幼稚園の想いを尊重しながら検討してまいります。平成 20 年 3 月に「菊川市幼保施設整備基本計画方針」を策定しましたが、制度の変更に応じて修正していきたいと考えております。

子育て支援は、市としても非常に重要な位置づけをしておりますので、小学校については学区の変更や学校の統合は考えておりませんし、保育園、幼稚園については制度が変わる中で取り組んでまいります。

(閉会 : 20:30)